

令和4年度 天満南小学校 学校教育計画

校訓 「たくましく こころ豊かに 美しく」

1 教育目標 「こころ豊かに生きぬく子どもの育成」

ー学校運営協議会と協働し、家庭・地域と連携を図りながら、
人間尊重を基盤とした、やさしく、たくましく、自主性のある子どもの育成ー

〈めざす児童像〉	①健康で明るく元気な子 ②思いやり、励まし合う心豊かな子 ③進んで学び、課題を見つけ、解決する子 ④何事にも努力し、最後までがんばる子
〈めざす教師像〉	①使命感をもち、児童に寄り添う教師 ②専門性をみがき、子どもの力を引き出す教師 ③豊かな人間性を備え、信頼される教師 ④自ら学び続ける教師
〈めざす学校像〉	①わかる授業と「確かな学力」の育成に努める学校 ②児童の自己肯定感を高めることができる学校 ③家庭・地域との連携を大切にした信頼される学校 ④安全で美しく整備された学校

2 重点目標

(1)「確かな学力」の育成

- ・基礎的・基本的な知識・技能の習得、課題を解決するための思考力・判断力・表現力の育成、主体的に学習に取り組む態度の育成を図る。
- ・授業の中で目標（めあて・ねらい）を提示して、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、児童の課題に対応した授業改善に努める。
- ・各教科等において、「考えを深める」「発表する」「書く」等の言語活動を充実させ、言語で表現された内容を正確に理解し、適切に表現する資質・能力を育てる。
- ・ユニバーサルデザインの視点を生かした授業研究を行う。
- ・兵庫型学習システムを推進する。
- ・体験的な学習活動を重視し、学ぶ喜びと感動が味わえるようにする。
- ・外国語教育（英語活動・英語科）の充実を図る。
- ・発達の段階に応じて、ALT との英語を用いたふれあいや対話、討論の機会を充実し、国や文化の異なる人々と主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。
- ・知識を広げ思考を深めるとともに感性を豊かにする読書活動を充実させ、家庭や地域とも連携して読書習慣を身に付けさせる。

(2)「豊かな心」の育成

- ・教育活動全体を通じて児童の道徳性を養う。
- ・「特別の教科 道徳」の指導方法の工夫に努めるとともに道徳的価値の自覚を深め、道徳的实践力を育てる。
- ・今日的な人権課題に対する理解を深め、発達段階に応じた人権教育を推進する。
- ・生命の尊厳を基盤に、自他に対する肯定的な態度と共生社会の実現に取り組む実践力を育成する。
- ・日本の伝統・文化を尊重するとともに、他の国の生活や文化に敬意を払う態度を育成する。
- ・芸術文化に親しみながら豊かな感性や情操、生涯にわたって芸術を愛好する態度を育てる。

(3)「健やかな体」の育成

- ・体育・スポーツ活動の楽しさや喜びを味わわせる。
- ・教育活動全体を通じて、体力・運動能力向上を図る。
- ・食育を計画的に進め、児童に食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けさせる。

- ・養護教諭や学級担任等は相互に連携して、児童の心身の状況を的確に把握し、心身の健康に関する指導を適切に行う。
- ・家庭・地域と連携した学校保健活動を推進する。

(4) 特別支援教育の充実

- ・個に応じた指導法の研究と、一人一人の教育的ニーズを把握し、きめ細かく適切な教育的支援を行い、社会の一員として主体的に生活を営むことのできる力を育成する。
- ・障害のある子どもと、障害のない子どもの交流及び共同学習や地域の人々との交流活動を積極的に推進し、特別支援教育の理解・啓発を図る。
- ・共生社会の実現に向けたインクルーシブ教育システムの構築に関する教職員の専門性の向上に努める。
- ・特別支援教育コーディネーターを核として研修を深める。

(5) 学級づくりの充実

- ・児童の一人一人の良さをいかした計画的な学級経営を実践する。
- ・児童一人一人に積極的な関心に向け、達成感や自己肯定感を共感的に認めることにより、学級が安心できる居場所となるよう工夫する。
- ・学級活動や学校行事等を通して、主体的に考え、自他の違いを互いに認め合い支え合いながら、自ら課題を見つけて解決しようとする自主的、実践的な態度を育む。

(6) 児童理解に基づく生徒指導

- ・児童一人一人の内面に対する共感的な理解を深め、人間的なふれあいを通して、個々の児童の良さや可能性をより発揮出来るよう指導する。
- ・いじめの積極的な認知と、未然防止、早期発見・早期対応における組織的対応の充実を図る。
- ・不登校の予防や支援の充実を図る。
- ・児童虐待の早期発見・早期対応に努める。
- ・家庭・地域及び関係機関と緊密に連携し、カウンセリングや指導体制の充実を図る。

(7) 安全・安心な学校づくり

- ・児童に自らの安全を守るための能力を身に付けさせるため、安全教育の推進を図る。
- ・各教科や体験活動等を通して防災・減災の意識高揚を図るとともに、災害から自らの生命を守るため主体的に判断し実践する力を育成する。
- ・防災訓練等の機会を活用し、学校防災体制の充実を図る。
- ・施設・設備の保全、改善に努める。

(8) 情報活用能力の育成

- ・GIGA スクール構想の具現化に向け、ICT 端末を効果的に活用し、個別最適化された学びと主体的・協働的な学びの充実を図る。
- ・小学校段階におけるプログラミング教育、情報モラル教育を計画的・継続的に行う。

(9) キャリア教育の充実

- ・児童一人一人が生涯を見据えて、学ぶ意義や目的を見出し、充実した人生を送るための基盤となる能力について、小学校から高等学校までの各学校段階間のつながりを重視しながら、意図的・継続的に育成を図る。

(10) 体験活動の推進

- ・兵庫型「体験教育」等の体験活動において、達成感や自己有用感を高めるための学習活動の工夫と、事前・事後指導の充実を図る。
- ・地域の文化行事や伝統行事等に参加し、地域の人々と協力し合う場を設けることにより、地域の人々とのつながりを深め、感謝の心やふるさとを愛する心を育てる。
- ・福祉体験活動の機会を持ち、ボランティア活動への理解を深める。

(11) 地域とともにある学校づくり

- ・学校だより、コムスク（CS）通信、ホームページ、オープンスクール、学校行事等を通して保護者や地域に情報発信を行う。 ※コムスク（CS）＝コミュニティ・スクール
- ・地域の教育力（自然・人・専門機関・施設等）を積極的に活用する。